

2015 オロロンライン一人旅

(2015年9月19日(土)~22日(火) 小樽~ノシャップ岬 342km)

— 「駅; Station」を訪ねて —

御園生維夫さんが主催するトランスエゾが来年20周年を迎える記念行事として、9月にオロロンライン・マラソンが企画された。小樽から稚内ノシャップ岬までの日本海側を走る【100km×3日+42.195km×1日=342km; 4日間】のステージレースだ。シルバーウィーク2日目の20日(日)スタートして最終日23日(水)ゴールの計画である。御園生さんから出場を打診され悩んだ。連休明けの24日早朝から会社で重要会議があるので23日は早めに帰京したかったのだ。当初の企画では4日目が60kmの計画だったので、最終の飛行機便に間に合うかどうか判らなかった。そこで御園生さんをお願いして私一人だけ前日スタートの連続走にいただいたのだ。これなら22日中にゴール出来、1泊して23日の1便で帰京できる。ランナーが二手に分かれ、かつ時間差もあるので御園生さんのサポートが大変な事は判っていたが、我儘を聞いてもらうことにした。

前日夜遅く札幌入りして1泊し、19日(土)朝、小樽市の北側にある高島岬祝津展望台に立った。今日から0泊4日の旅が始まる。御園生さんからコースとサポート方法の説明を受け、写真を撮って貰ってからスタートした。ここからノシャップ岬まで342kmのコースだが自分としては大まかに3分割して考えていた。まず一つ目は0泊2日で200km先の苫前(とままえ)まで行くこと。次は3日目中に70km先の天塩(てしお)に到着する。最後4日目にゴールまで72kmを走るのである。最初の200kmもその中を3分割で考えていた。95km先の浜益(はまます)、140km地点の増毛(ましけ)、そして200kmの苫前である。



<小樽高島岬をスタート>

もう一つ目的があった。それは昔の映画、高倉健主演の「駅; Station」に出て来る場所を訪ねたいと思っていたのだ。コース上にある「銭函駅」「雄冬」「増毛駅」「留萌駅」である。特に増毛は風待食堂「すず子」の烏丸せつこ、「桐子」の倍賞千恵子、が重要な役割を演じた土地であり是非とも訪れてみたかったのだ。もちろん銭函の石田あゆみ、雄冬の古手川祐子も忘れてはいけない。

高島岬を9時ちょうどにスタートする計画だったが、少し遅れて9時25分の出発となる。岬の高台から降りて5km走ると小樽市街地に入る。有名な運河沿いを走る。連休のせいか朝から観光客が多い。運河橋上の気温表示は18.9℃。スタート時は長袖だったが走り出すと暑くなり、すぐ半袖になった。小樽港では白い大きなフェリーが今から日本海に向けて出航するところだ。小樽～舞鶴を結ぶ新日本海フェリーである。石原裕次郎記念館を過ぎ、国道5号線に合流し海沿いに札幌方面に向かう。10km地点通過が10時50分。その後もコンビニで軽食を取り、のんびり進む。22km地点からコースを外れて「銭函駅」へ道草する。映画「駅」のファースト・シーン、銭函駅のホームで高倉健が妻子と別れる。去って行く列車のタラップで敬礼する石田あゆみの泣笑顔が思い出される。



＜小樽運河は気温高め＞

今日半日は御園生さんが車でサポートしてくれる。トランスエゾで残ったキリンビバレッジの飲み物が車に積んであるので、私の一番好きだったソルティライムソーダを途中でいただいて飲む。オロロンライン本来コースの国道337号線に戻る。北海道特有の広くて真っ直ぐな道が続く。石狩市内に入り14時頃(35km辺り)から遂に雨が降り始める。天気予報では今日、明日と雨予報だったがスタート時には降っていなかったのでも何とか持つかと少し期待していたのだが、やはり駄目だった。かなり激しく降り始め、水溜りもでき靴は完全に濡れてしまう。足裏のテーピングが剥げるのが心配だ。42km地点で左のコンビニに入ることにした。セイコーマートで暖かいカツ丼を買って御園生さんの車に座って食べる。雨宿りもでき身体も暖まったので元気に再スタートする。ここからは完全に一人旅で増毛(140km)まで走る。明日の朝9時頃に到着する計画である。



＜銭函駅；「駅」 First Scene＞

御園生さんのサポートはここまで。彼はこれから小樽の宿に戻り、明朝スタートするステージランのみなさんと合流する。ステージランの参加者は、荻野さん(愛知)、西村さん(兵庫)、末松さん(福井)の3名である。荻野さんは奥様が夏のエゾを走られ



＜雨に煙る石狩川＞

たので、今度のご主人が走る。今回は奥様が二人の子供さんと一緒にレンタカーでサポートされるらしい。本当に素晴らしい家族である。

毎年のことだがトランスエゾ後は余り練習が出来ていない。ここからは無理しないでじっくり進もう。石狩川を渡り、雨に降られながら進む。合羽を着ているので走り難い。17時半を過ぎると暗くなってきた。雨なので暗くなるのが早いようだ。17時55分に55km地点（望来）のコンビニに到着したので軒下を借りて夜の準備をする。アマゾンで購入した大型のLED点滅灯を前後に付ける。更に小型の点滅灯や反射板をリュックや足首にセットし、最後に高輝度LEDライトを手を持って再スタートする。雨の夜、歩道のない路肩を進むので最大の準備をする。ここから海岸線のアップダウンのある道に入る。雨は相変わらず強く降っている。

最初の目標である95km地点の浜益のコンビニが24時に閉店する。今の調子では閉店時間に間に合いそうもない。20時20分に68km地点の厚田のセイコーマートに着いたので、食料調達することにした。ここから明朝の増毛（140km）までコンビニはない。パンやおにぎりをリュックに詰め、店前でサンドイッチ+おにぎり+味噌汁を食べながら浜益に向かう。ここからはトンネルが多く、雨を凌げるし足元も明るいので走り易くなった。歩道が狭いところや歩道に水溜りがあるトンネルでは車道を走る。めったに車は来ないが緊張するので眠気が出ないで済む。80km、90kmのポイントを無事に通過し、結局9月20日（日）真夜中1時20分に「浜益」の海浜公園（96km）に到着する。予定より約1時間の遅れ。また雨が強くなってきたのでトイレに入って休憩する。御園生さんから事前に情報を得ていたのだが、このトイレは内部に立派な休憩場所があった。飲食と荷物整理で約20分休憩し、仮眠は取らずに再スタート。次は20km先の雄冬を目指す。

10km毎のチェックポイントで御園生さんにメールを打つことになっているが、御園生さんの睡眠不足が心配だったので、100km地点のタイムは110km地点でのメールと一緒に打つ。降り続いた雨も小雨になり、空も徐々に明るくなってきた。5時30分に115km地点の「雄冬」に到着し、写真の自撮りをする。ここ雄冬は映画「駅」の中では主人公の故郷である。妹（古手川祐子）の結婚問題がサブストーリーとして組み込まれている。ここにも立派なバス停が立っていたが、夜が明けて眠気も疲れもなかったので休憩なしで進む。

120km地点の岩尾温泉と銀鱗の滝を6時30分に通過。増毛に9時到着を目標に先を急ぐ。ここからも覆道やトンネルが続く。この辺



<雄冬；立派なバス停> <大別苧橋では太陽が>

りは工事中のトンネルが多く、片側通行なので走り難い場所が多かった。ランナーのため
にわざわざ車を止めてくれる工事箇所もあり、そこでは少し恐縮する。アップダウンが激
しく増毛町に入る最後の登りは結構辛かった。長いトンネルを抜けると130km地点の
大別苧橋が見えてきた。時間は8時過ぎ。橋のたもとに御園生さんの車が見えた。今日か
ら始まったステージランのスタート（小樽高島岬を4時出発）に立ち会って小樽市内でサ
ポートした後、急いで130kmを車で飛ばして様子を見に来てくれたのだ。ありがたい。
この時はたまたま晴れて太陽が出ていた。喉が渴いていたのでソルティーマイムソーダを
もらって飲む。写真も撮ってもらい増毛で一緒に朝食を取ることを約束して再スタート。
峠を下って行く。

138kmの増毛町に9時30分到着する。町の入口にある暑寒別川では鮭が群れを成
して川を昇っていた。御園生さんが出迎えてくれる。小樽から約140kmを24時間か
かったが、これは計画

通りの時間だった。朝
食の前に日本最北端
の酒造「国稀（くにまれ）」に入って10種以
上のお酒を試飲させ
てもらおう。合計1合近
く飲んだらうか。その
後食堂に入り、大海老



＜国稀酒造での試飲＞



＜大海老の天井で食事＞

の天井と野菜サラダの食事をする。食欲は旺盛だ。食事後、増毛駅と風待食堂を訪れる。
映画「駅」では最も重要な場所である。今にも烏丸せつこ、倍賞千恵子が現れそうな古い
佇まいである。増毛は全体に昔の建物が多く残っているレトロな雰囲気の町だった。「駅」
のシーンと同じ雪深い季節に訪れ、八代亜紀の「舟唄」を聞きながらゆっくり熱燗でも飲
みたいものだ。

約2時間半の休憩後、
11時07分に再スタ
ートする。しばらくは
御園生さんが写真を撮
りながらサポートして
くれたが142km辺
りでお別れする。御園
生さんはこれからステ
ージレースのゴール場



＜烏丸せつこの風待食堂＞

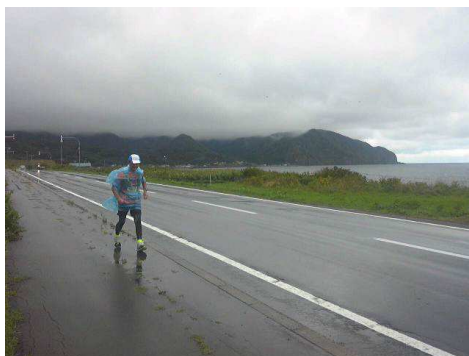


＜増毛駅は昔の佇まい＞

所（100km地点の浜益）まで戻らなくてはいけない。今日と同じように明朝また様子
を見に来てくれる約束になっている。途中でまた何度も雨に降られながら150kmを1

3時過ぎに通過し、留萌の町に入って行く。この町は都会で大きく、留萌駅も映画「駅」に出てくるが、今日のコースが駅から少し離れているので訪れるのはやめた。総距離を342kmに合わせるため、市内を大きく迂回するコース設定になっている。ショートカットしたい衝動に駆られるが、最遠隔地点がチェックポイントになっている。敵もさるものだ(笑)。チェックポイントとなっている留萌本線東雲跨線橋を写メに撮って御園生さんに送る。

160km地点を15時少し前に通過する。ここから海岸通りが続く。左側は日本海の荒波だ。風が強くと時々雨雲を連れて来てザーッと雨を降らす。そのたびに合羽を着るので時間ロスも大きい。165kmを過ぎた辺りから疲労と眠気が強くなる。息が上がり始めたので17時少し前170km地点でバス停に入って休憩する。ベンチに座ってうつらうつらしながら10分休憩すると気分が良くなったので再スタートする。残り30kmを頑張



<また雨が・・・>

張って今日中に200km地点の苫前に到着してきました。17時半を過ぎて暗くなる。180km地点を18時40分に通過。ここまでは何とか頑張っていたが、鬼鹿のセイコーマートで温かいオニギリと飲み物を買って食べたら急に疲れが出て眠くなる。すぐ隣にあったバス停に座った途端、不覚にも眠ってしまう。気が付いて時計を見ると21時30分。何でこんなところにいるのか、何が起きたか判らず、5分くらい半醒半睡状態でボーっとしていたが、やっと現実が戻って来てあわてる。計算してみると約2時間も仮眠していたことになる。すぐに再スタートする。頭はスッキリしたので、ここからロスを取り戻そうと先を急ぐ。

23時過ぎ190km地点を通過して『少し遅れたけど心配いりません。』と御園生さんにメールする。190km地点のメールが遅いので心配していると思ったのだ。途中でまた雨に合いながら、195kmの上平バスターミナルを過ぎ広く立派な新道を登って200km地点の苫前に着いたのが1時14分。予定より1時間少しの遅れ。計画では明朝3時スタート予定だったが、4時スタートに変更することを御園生さんに連絡してからバス停で仮眠する。苫前の町の真ん中にあるこのバス停は隣にトイレが設置してある立派な建物。薄い敷物がある広いベンチで横になって眠る。北海道のバス停はどこに行っても扉付きで小屋になっており、風を防げるので「ホームレスラン(※注)」には最適な地域である。今回はじっくり眠るという意志のもとで横になる。すぐに意識がなくなったが1時間後に寒くて目が覚める。リュックから長袖シャツと薄いウインドブレーカーを出して着込み再び熟睡。1時間後にまた寒くて目が覚める。今度は足下が寒い。リュックから合羽を出して両足に巻き付けると暖かくなる。携帯の目覚ましで4時に目覚めるが外は雨が降っている。トイレに行って様子を見てみると小降りになったので4時25分に再スタートする。

徐々に明るくなってきた。(※注) バス停のベンチ、道の駅・ファミレスなどで休憩・仮眠しながら走るランのこと。

3日目の21日(月)、今日の目標は270km地点の天塩町である。70kmをゆっくり15、6時間で行っても今夜は充分仮眠できる計算だ。明日の朝3時に天塩町をスタートしてゴールに向かうことを御園生さんと約束していたからだ。5時50分に209kmの羽幌町(はぼろ)のコンビニに着いたが、その途中でも激しい雨に合った。19日のスタートから雨雲を連れて走っているようだ。雨男の真骨頂というところか(笑)。ここのコンビニが珍しくセブンイレブンだったので、セブンコーヒ



ーとドーナツ2個を食べて出発する。21

<オロロンライン R232>

<初山別も雨が続く>

0kmのチェックポイントでは何と青空が見えて来たが、騙されはしない。青空と雨雲の繰り返しなのだ。海岸線を走るオロロンライン国道232号線はこの辺りからアップダウンの連続になる。疲れも激しいので険しい登りは歩きで進むことにする。右足前頸骨筋が少し腫れて痛みがあるので無理は禁物だ。また雨になる。激しく降るときは雨宿りもしながら進む。これまで何回リュックから合羽を出したり入れたりしたことだろう。

8時30分、220kmを通過。今は時速5kmのペースで進んでいる。9時過ぎに御園生さんからメールが入る。『初山別の道の駅で温泉に入って休憩しませんか?』車でこちらに向かっているらしい。地図を見ると230km地点に道の駅があり温泉があるようだ。2日間汗をかいたままで身体がべとべととしているし、着替えもしたかったので『温泉に入って休憩します。』とメールで答える。10時30分ちょうどに土砂降りの中を初山別温泉「みさきの湯」に到着。ほぼ同時に御園生さんの車も到着する。助手席に何と西村さんが乗っていたので驚く。2日目20km辺りで早くもリタイアしたらしい。温泉が11時からだったので先に食事をする。生ビール+ラーメン+イクラ丼、ここでも食欲は旺盛だ。食事後温泉で汗を流す。今から走って行くオロロンラインの登り坂が露天風呂から遠望できる。金比羅岬という高台にある景色最高の温泉である。湯から上がって休憩所で、両足のテーピングを一からやり直し、右前頸骨筋のテーピングも念入りに行う。上下のウェアを着替え、心身ともサッパ



6

<初山別温泉露天風呂>

<遠別で250km通過>

りして13時20分に再スタートする。今日はここで御園生さんとお別れ。また明朝のサポートをお願いする。御園生さんはステージランと両方のサポートをするので車の前後移動が大変だ。私の方はここで3時間弱の休憩を取ったので、これから頑張らないといけない。

幸いに眠気もないし走りも調子が戻ってきた。相変わらず時々雨に降られながら232号線を北上していく。14時30分240km地点通過。アップダウンの厳しいコースだったが、この10kmは1時間10分と速い。途中道の駅「富士見」でソフトクリーム休憩を入れて、16時30分に遠別町の入口で250km地点に到達する。これで萩往還の距離をクリアしたが時間はスタートから55時間が経っている。残り20kmで今日の目的地の天塩町だ。ここからは道のアップダウンも少なく走り易い道が続く。途中から暗くなる。少し前に大雨が降ったようで歩道や車道には大きな水溜りが沢山出来ていた。今回はその大雨に合わなくてラッキーだったと思ったのだが・・・

260km地点のチェックポイント『牧場の看板』前を18時30分に通過。既に周囲は暗闇である。夜に入ると速度は落ちるが残り10km。順調に行けば20時過ぎには到着すると思ったのだが、そうは問屋が卸さなかった。天塩町まで残り5kmの地点で、一天にわかにかき曇り（真っ暗なのではっきり見えないが黒雲が空を覆いつくし）前方で強烈な落雷の閃光が走る。耳をつんざく轟音。嵐がやって来る。急いでリュックから合羽を取り出そうとモタモタしていると突風がきた。一瞬竜巻ではないかと思うほどだった、身体が飛ばされそうになりその場でうずくまる。合羽を取り出したものの強風のために被れない。直ぐに大粒の雨が追い掛けてきた。一気に土砂降りになる。暴風雨の中、道端にうずくまって合羽を両手で押さえたまま我慢する。リュックを濡らさないようにするのが精一杯だ。横殴りの雨だったので背丈の高い草むらを風除けにしようと道端ににじり寄って行く。ところがそこは道路が傾斜地になっており水が滝のように流れて来て足首で波立っている。靴はもう水の中に浸かっており身体もリュック以外はずぶ濡れ状態だ。雷は頭上でバリバリはじけて、そこら中に落ちている。とにかく虫のように道路に這いつくばったまま約20分間耐え忍ぶ。ようやく風が収まってきた。まずは合羽を頭からきちんとして着込む。雨は未だ強いが風も雷も収まったのでゆっくり歩きだす。全身が濡れて冷たい。一番の心配は靴が濡れたのでテーピングが剥がれないかということだ。早く乾かしたいが天塩町まで5kmあるし、歩道はプール状態になっていて走れない。ライトの明かりは強力だが反射して水溜り有無の判断ができないのだ。仕方ないので町まで歩いていくことにした。天塩町の入口にある道の駅に寄ってみたが休憩所は閉まっていてトイレが使えるだけだった。ようやく雨も上がって合羽をリュックに仕舞い、町の突き当たりまで歩く。時間は21時05分。嵐の影響で約1時間の遅れである。

地図に書いてある通り右側にコンビニ（セイコーマート）があったので入る。ここで夕食を買ってバス停で休む予定である。コンビニに入ってみると幸運なことに「イトイン」が設置してある。23時までには食事をして良いということで、カルビ丼とスパゲッティーに

ホットコーヒーを買って、ゆっくり食事をする。体を乾かしながら暖かい飲み物も追加して休憩する。これで精神的には随分癒された。北海道のセイコーマートではめったにお目にかからない「イトイン」がここ天塩町にあったのは本当にラッキーだった。嵐に耐えたご褒美だったかもしれない。23時前になり、最後に明日の食料、飲み物、それと夜の寒さ対策用にカイロを4個購入してから近くのバス停に向かう。このバス停の情報は御園生さんから聞いていたのですがすぐに場所が判ったが、やけに広くて室内の明かりが煌々としているので驚く。明かりが付いていないとの情報だったので、御園生さんに電話で確認する。明るくても問題ないだろうということなので予定通り入って休むことにする。プラスチックの固定椅子（野球場の観客席の様）が並んでいる。横になると凸凹しているの、寝心地は極めて悪いが贅沢は言えない。コンビニで買った新聞を濡れた靴に押し込み、両足の裏にはカイロを貼って乾かす。夜の寒さ対策用に持って来た長ズボンを履き、長袖シャツ+ウインドブレーカーを着て0時頃に仮眠する。背中が痛くて1時間毎に目が覚めたが睡眠欲の方が優勢だった。

4日目の22日（火）、目覚ましは3時にセットしていたが10分前に目覚める。頭はスッキリしている。トイレに行ってから3時ちょうどに再スタートする。真っ暗だが空にはところどころ星が見えている。雨のスタートではなくホッとす。町外れから県道（道道）106号線を進み、天塩川を渡って海岸線に出る。ここからがオロロンライン最高の絶景場所であるが、ゴールまで72kmはコンビニが一つもないし、自販機も20kmに1箇所くらいしかない。基本はリュックの食料と飲料だけが頼りの道である。しかし、それが自然というものだ。雲が晴れて満点の星空が現れる。うっとりするほど美しい。北極星がこんなに明るい星だったと判り驚いた。

280km地点を4時50分に通過する。徐々に明るくなってくる。道の右側には大きな風力発電の風車が林立している。昨日、遠別のコンビニの前で会ったおじさんがここは風の強い場所だと言っていたのを思い出す。年間平均風速は7m以上だと言っていたが今日は左後方からのそよ風である。283km地点の駐車場にはトイレがあったので使う。5時47分に285km地点の北緯45度モニュメント前に到着する。トランスエゾの中頓別にある45度標識の西方に当たる訳である。自撮りして御園生さんに写メで送る。直後に交通整理の案山子がいたのでいたずら自撮りして、これも写メで送る。ここまでは左側に歩道があったのだが、そこからは無くなったので右側の路肩を走る。車に注意だ。

空は晴れ渡っている。今日は天気良さそう（油断はできないが；笑）。日焼け止めを顔と首筋に塗り、日除け布を帽子に装着して準備万



<北緯45度ラインで>

<ごめんなさい！>

端。残り60kmを楽しもう。朝の爽やかな空気の中を進む。気温は16、7℃か。半袖でちょうど良い。6時30分、290km地点通過。豊富町に入る。295km地点が「稚咲内漁港」前で珍しく信号がある。右折すると豊富町方面に行く。信号を過ぎて直ぐ左側に広い駐車場と店のような建物があつた。店先にはラーメンの旗が立っているので昼間は営業しているのだろう。お店の外側の扉は開いていたので入ってみると自販機があつた。私は未だ水を充分持っていたので、ここはパスして外に出ると、中年の女性から声を掛けられる。「どこから来られたのですか?」「小樽からオロロンラインを走って来ました。今日が4日目です。」「えっ!休みなしで?」「はい。途中バス停で何度か仮眠しましたけど。」「(私の名札を見て)東京の方ですね。私たち夫婦は神奈川ですが、一度オロロンラインを走ってみたいと思って来たのです。でも全部は無理なので、車で走って途中で、この辺りとノシャップ岬近くをジョギングするつもりなんです。」「そうですか。」「ところで昨夜我々は遠別に泊まりましたが、ものすごい豪雨・雷雨だったはずですが、どうされたのですか?」「はい。天塩町の5km前で遭遇して頭から濡れ鼠になり苦労しました。」「へーっ!!凄いですね。オロロンラインを足で完全制覇ですか。そんなことできるんですね。我々は車でも全工程を計画するのは無理だったんですけど。凄いですね。」「はあ・・・走るといっても時速5km程度のゆっくりですからね。」こんな、ちょっとうれしい会話があつた。人に見られて凄いとされると元気が出る。再び機嫌よく走り始める。と、ちょうどそこに後ろから御園生さんの車が追い付いてきた。もうすぐ300km地点だ。写真を撮ってもらえるのでグッドタイミングだった。

8時30分、ついに300km地点に到達する。左前方には利尻富士の雄姿が見えている。御園生さんに写真を撮ってもらい休憩する。御園生さんが何とビールとつまみとオニギリを買ってきてくれた。車後部の荷物室に座ってビールを飲む。美味い!!300kmをクリアしてゴール



＜300km をクリア＞



＜利尻富士が出迎え＞

もほぼ手にしたので気持ちに余裕がある。飲食しながらのんびりする。青空と白波、遠くにも大きな雲は見えない。3日間雨に悩まされ続けたが最終日だけは神様が太陽のご褒美をくれたのだろう。身体は疲れきっているが精神は高揚している。眠気も全くない。15分休んでから再スタートする。ここからは常時左側に海岸線と利尻富士を眺めながら進むことになる。一方右側はサロベツ原野の国定公園である。丘陵地帯、湿原地帯が続く道を北に向かう。20kmは人工物が何もない自然のままの道である。先ほど出会った神奈川のご夫婦も10km程度二人でジョギングしていたが途中から車に引き返したようだ。

10時40分に310km地点を通過。ここで一旦御園生さんと別れる。御園生さんはここから戻って昼間はステージレースをサポートする。ただ、夕方の私のゴール時にはノシャップ岬に来てくれることになっている。ここから丘陵地帯特有のアップダウンの道が続く。途中でトイレ(大)に行きたくなる。5km先にはトイレがあるが我慢できなくなり海岸側の藪の中で自然人になる。国定公園



＜稚内まで30km＞



＜抜海の子負い石＞

内は罪が重いかもしれないがお尻の白い熊が

一頭いたということにしよう。318kmの駐車場には展望所があった。自販機もあったので炭酸水を買う。展望所の下部屋を覗いてみるとテーブルがあり休憩所になっている。先ほどの神奈川のご夫婦がキャンプ用ガスコンロでお湯を沸かしてレトルトのカレーを作っていた。「30分待ってくれたらカレーをご馳走してあげます。」と誘われたが「ゴールに少しでも早く着きたいので。」とお断りして再スタートする。12時40分に320km地点を通過。残り22km。左前方に突き出た岬が見える。天塩町からのオロロンライン海岸線で唯一の町である「抜海(ばっかい)」というところだ。丘を下って近づいていくと、緑の小山の上に大きな岩が乗っているのが見えてきた。私には巨大なバツタの形に見えたが、後で調べると子供の姿だった。抜海という地名はアイヌ語の「パッカイ・シュマ」(子負い石)から付いたらしい。裏側に神社があったがこの抜海岩が御神体のようだった。久しぶりに家並みがあり自販機もあったが水は足りていたのでパスする。

村を回りこむと前方に突き出た半島が見えた。未だ遠いがノシャップ岬につながる山並みだ。325km地点を過ぎ、残り15km少し。いよいよ最後のステージだと思った途端に大変なことが起こった。全身が痛みを主張し始めたのである。足の裏、足首、前頸骨筋、フクラハギ、太腿、腰、肩の凝り、何と坐骨神経痛までが出て来た。各部位が自分こそが一番痛いのだと競い合っている。トランスエゾでも経験したが身体がもう走りたくないと言っているのだ。苦笑いしながら走る。心の方はゴール寸前で高揚しており、止めるどころか、一刻も早くゴールしてビールを飲みたいと前向きで潔いのに、身体はここまで来ても未練らしいのだ。『判った。判った。』と身体を宥めておいて、ウエストポーチからiPodを取り出す。最後はミュージックランで乗り切ろうという作戦である。早速イヤホーンをつけてスイッチON。大好きないつもの曲が流れる。さあ、これで10kmは大丈夫だろうと進む。ところがどうしたことだろう。いつもと様子が違う。耳元が不愉快なのだ。何故？一瞬戸惑ったが、現実には音楽が雑音にしか聞こえないのだ。不愉快な人工的な雑音。こんなことは初めての経験だった。大好きな曲ならどんな時でも心はリラックスできるはずなのに・・・イヤホーンを外してみる。心が静まってこちらの方が落ち着

く。身体は痛みを主張しているが心は穏やかなのだから音楽は必要ないようだ。しかし、音楽が雑音に聞こえたのは初めての経験だった。4日間ほとんどが大自然の中を原始的な「走る」という行為に没頭してきた結果、音楽でさえ「異物」と感じたのだろうか。本当に不思議な経験だった。

もう足の筋肉は疲労限界に達しているので走っていてもスピードは出ない。時速5km以下かもしれない。それでもトコトコ走る。5kmがとてつもなく遠く感じ、230km地点を14時45分に通過する。残り12km。時間を計算してみると17時頃のゴールになりそうなので御園生さんにメール連絡する。ステージラン（今日のゴールは300km地点）のゴール時間とぶつかるのが心配だったが、御園生さんからの返答ではステージランも相当遅れているので大丈夫とのこと。

最後のコースは稚内半島の西側を10km北上する。さびれた寒村という風景である。あちこちに棒ダラを干す大きな木組みの棚が見える。ここは西風が強く冬は厳しい場所だろうが逆に乾燥に適しているのかもしれない。もう全くスピードはなくヨロヨロという足取りで進む。歩道の少しの凹凸さえ走り難く感じるほど足が上がっていない。最後にテントウ虫を採取することだけは避けよう。右側に小さな公園と草むらがあった。そこに大きな鹿の置物が置いてあった。いやっ本物だ！！じっとこちらを見ているので置物だと思ったのだ。周囲に目をやるとそこら中に野生の鹿がいる。村の家並みの中で堂々と草を食んでいる。完全に人間生活と共生している。ポケットにポテトチップスの残りがあったので投げてやったが見向きもされなかった。彼らの食べ物は草だけ。自然の中で生きている。ゴールまでに十数頭も見かけたが数が増え過ぎているのかもしれない。



<人と共生する鹿たち>

16時32分、340km地点のチェックポイントを確認して御園生さんにメールを打つ。残り2km。直後に御園生さんの車が後ろから追い付いた。前方にはゴールの灯台が見えているが、感動も感激もなく淡々としている自分が不思議だった。最後は右遠方に宗谷岬が見える海岸通りに出て灯台を右側から回り込む。御園生さんが写真を撮ってくれる。灯台を過ぎて岬の先端の公園に入っていく。前から美しい夕陽が差す中、観光客の間を縫って北端のノシャップ岬の看板にタッチ。心穏やかなゴールだった。時間は9月22日（火）16時53分。4日前19日（土）の9時25分にスタートして通算79時間28分の旅だった。



<ノシャップ岬にゴール>

御園生さんからゴール写真を数枚撮ってもらって、買って来てくれたビールで乾杯！！美味しい。この一杯で全てが報われる。その後は車に乗って戻り、ステージランのゴールを応援する。未だ生き残りの萩野さんのゴールだった。奥様と二人の子供さん（ひーちゃんとすずちゃん）にもお会いしてご挨拶。残念ながら、今日は西村さんと末松さんは途中リタイアしていた。やはり100km×3日は厳しいのだ。その夜は豊富町の宿で食事と入浴、そして御園生さんと二人で乾杯する。就寝するまで不思議に眠気が出なかった。翌日はステージラン最後の42kmを車で応援する。結局、萩野さんが4日間すべてを完走。47時間42分の見事なタイムだった。ゴール後みんなで写真を撮ってから、御園生さんに稚内空港まで送っていただき13時の飛行機で帰京する。

（あとがき）

トランスエゾが終わってからちょうど1ヶ月後のレースだったが、疲労や故障などの影響は特になかった。むしろ練習不足を心配していた。実は練習不足になることは判っていたので連続走を無理にお願いしたと言うのが正直なところだ。100km×3日+42km×1日は相当ハードなランになる。一方、連続走なら夜も走れるので速度はいらない。じっくり進めば何とかなると思った。萩往還250kmの0泊3日では仮眠なしで40数時間を走れるし、大分～長崎300km（九州横断走；63時間35分）の0泊4日も仮眠合計2時間程度で走れた経験があったので睡魔については心配していなかった。北海道の夜の気候（寒さ）に少し不安があったが、仮眠場所となるであろうバス停が全て扉のある小屋になっているので9月なら大丈夫だろうと都合良く考えた。それでも手袋やカイロ、防寒のズボンやゴアテックスの上着などをリュックに入れて行った。また夜間の命を守るライトや点滅ライトも万全を期した。

途中の休憩や仮眠、入浴などを考慮すると、合計時間は76時間前後だと予想していたが、最終日を夜中の3時に出発することを御園生さんと約束した（ステージランのサポートとの関係や美しい海岸線をお昼に走りたいとの希望）ので、結果は79時間28分となった。最終日を3時ではなく0時前に出発したらどうだったか。最終日の仮眠を止めれば時間的にはスタートできたが、おそらく睡魔のために途中で仮眠をとることになり、結局ゴール時間は同じになったのではないかと考えている。

仮眠時間は、鬼鹿での予定外の2時間、苫前の3時間、天塩の3時間と合計8時間だった。3泊分で8時間なので1日平均3時間弱は眠れているのだから、睡魔が出てこなかったのはうなずける。苫前200kmまでで身体は完全に長距離に順応し、その後の140kmは省エネ走法（食事量も減った）になっていた。230km地点の初山別温泉での入浴は絶好のタイミングだった。疲れが取れ気分一新して後半を迎えられた。3日間の雨には正直うんざりした。特に靴が濡れてテーピングが剥がれることを恐れたが、幸いにして

足の故障はほとんどなかった。右足の前頸骨筋の下部が腫れ痛みも出たが、靴下のゴム部を切ったら腫れが小さくなりゴールまで何とか持ちこたえた。雨が3日間も続き靴が濡れたにもかかわらず足指にマメが一つも出来なかったのは驚きである。今使っている5本指のソックス（安物だが）が私の足に適しているのだろう。

連続走の私とステージランの3人の間を行ったり来たりしてくれた御園生さんには大変な苦勞を掛けてしまった。前半は100km以上の間隔が開いていた。ステージランの朝4時スタートをサポートして写真を撮ってから100km先の私のところに車で来てサポートしてから、夕方にはステージランのゴール場所まで戻らなければいけない。その間に宿泊場所への訪問と打ち合わせ、記録、ネットへのアップ作業など寝る時間もなかったようだ。その上、私が夜中も10km置きに場所確認メールを打つので睡眠不足になったようだ。本当に感謝している。

0泊4日のホームレスランと「駅; Station」ゆかりの地訪問を楽しみましたが、最後に、ゴール後御園生さんのホームページに送信した感想文を載せて終わります。

【 昨日までの3日間は次々にやって来る雨雲に悩まされましたが、最終日の今日は神様のご褒美をくれたようです。青空と海と風、利尻富士を見ながらのオロロンスペシャルです！残り15kmから身体は悲鳴を上げていましたが、心は逆にますます穏やかになって来ました。ただ走り続けるだけの4日間で、自分が自然の一部に同化してしまっただよ感じたのです。美しい夕陽に向かってゴールできる自分を幸せに思いました。みそのうさんそしてジャーニー仲間みなさん、応援ありがとうございました。来年も世界記録更新を目指します。笑。 夢見る力ある限り！ #373 南 】

(了)

